さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

道志中 授業で救命処置

万一に備え「集団行動」学ぶ

道志中は本年度から、体育の授業の一環で、1次救命の処置法を学んでいる。医療提供体制が不十分な村で、村民の救命率を高めることが狙い。生徒は村内で起こりうる救護事例を想定してプログラムを作り、練習を通じて処置の技術を磨いている。〈深沢澪〉

学びのきっかけは今年4月、県立中央病院救命救急センター長などを歴任した松田潔さんが校医に着任したことだった。

村医科診療所の所長も務める松田さんは以前、日本体育大の外部講師時代に、学生に授業の一環で救命措置を指導した経験がある。松田さんの経歴を知った道志中が指導やアドバイスを要望し、松田さんが応じた。

1次救命の処置は、体育の「集団行動」で学ぶ。集団行動はグループで秩序を保ち、効率の良い動作を行う訓練。生徒たちは9月の文化祭で学びの成果を発表することを目標に、6月に練習を開始した。初回は松田さんから胸骨圧迫や自動体外式除細動器（AED）の使用法などの心肺蘇生法を学んだ。

生徒はその後、三つの班に分かれて村内で急病人が発生しうる状況を検討。①道志中②道の駅どうし③村の体験型交流施設「みなもと体験館道志久保分校」付近の道志川－の3カ所を想定し、AEDの設置場所や救急車の到着時間を踏まえて練習に取り組んだ。

9月10日に開かれた文化祭では、各班がそれぞれの想定に基づき、練習の成果を披露。生徒の素早く的確な処置に、保護者らが見入った。3年生の山本晟之朗（じょうしろう）さんは「練習を重ねたことで自然と体が動くようになり、落ち着いて対応できるようになった」と感想。3年生の佐藤芳保さんは「将来は保健師になりたいと考えていて、これから役立てられそう」と語った。

道志中は今後、集団行動で取り組む救護事例を増やすことや、1人で処置ができるよう練習することを検討している。杉本賢二校長は「生徒全員が万が一の際に処置を行えれば、村で助かる命が増える。村の医療提供体制を支えられるよう、道志中の伝統として定着させたい」と話していた。

1次救命を取り入れた集団行動を披露する生徒＝道志中

（2022 年 10 月 5 日付 山梨日日新聞 17 面）

問1

道志中は、授業の一環で、何を学んでいますか。

問2

この取り組みを始めた狙いを、答えてください。

問3

6月から開始した授業の初回では、松田校医から何を学びましたか。

問4

杉本校長は、この授業について、どのように考えていますか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2022 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.